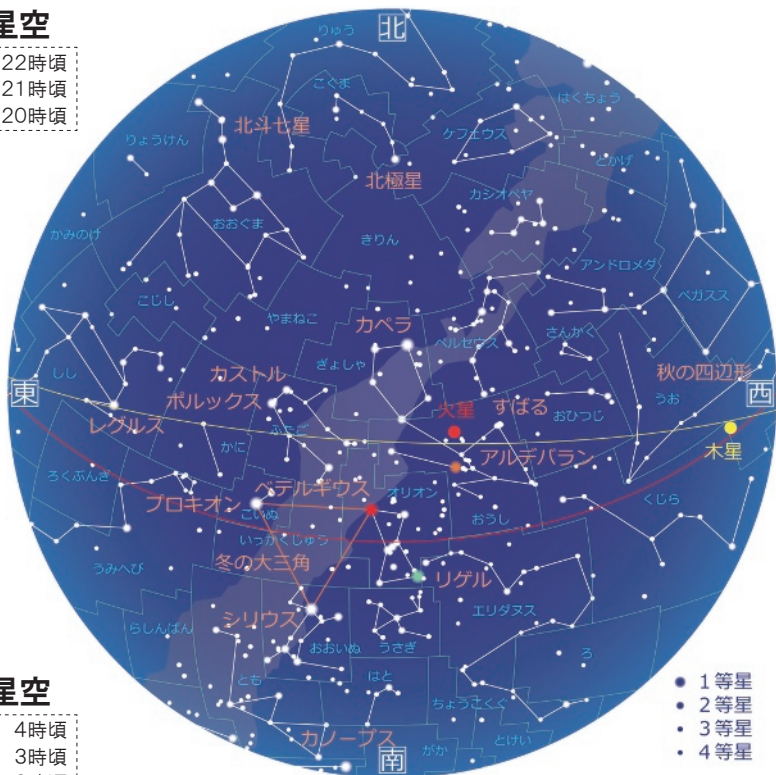


星空ガイド 1月16日～2月15日

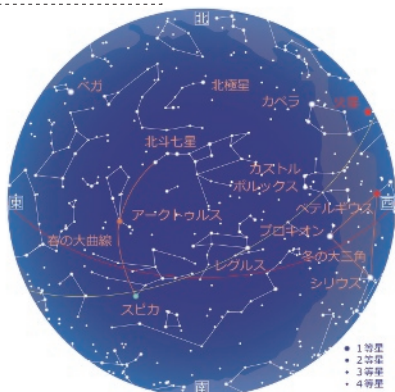
よいの星空

1月16日22時頃
2月 1日21時頃
15日20時頃



あけの星空

1月16日 4時頃
2月 1日 3時頃
15日 2時頃



【太陽と月の出入り(大阪)】

月	日	曜	日の出	日の入	月の出	月の入	月齢
1	16	月	7:04	17:10	0:53	11:58	23.7
	21	土	7:02	17:15	6:37	16:16	28.7
	26	木	7:00	17:20	10:01	22:23	4.3
2	1	水	6:56	17:26	13:18	3:35	10.3
	6	月	6:52	17:31	17:53	7:21	15.3
	11	土	6:48	17:36	22:44	9:32	20.3
	15	水	6:44	17:40	2:02	11:49	24.3

※惑星は2023年2月1日の位置です。

金星と土星が近づいて見える

1月の下旬、夕方の西空の低いところで、土星と宵の明星・金星が近づいて見えます。この時期、金星は日々少しずつ高度を上げていきます。一方、土星は徐々に太陽に近づき、高度を下げます。そこで両者がすこしずつ接近し、1月22日と23日の夕方には、角度で1度程度まで近づいて見えるのです。さらに23日は月齢1.5という非常に細い月も近づき、7倍程度の双眼鏡なら同じ視野の中に3天体が見えるほどになります。

ただし見える高度は低く、23日18:00での地平高度は、金星と土星が11度、月はわずか8度です(右図)。光度は金星がマイナス3.9等、土星が1.0等と差があります。観望は日没後30分から1時間くらいの間で、双眼鏡での観望がおすすめです。

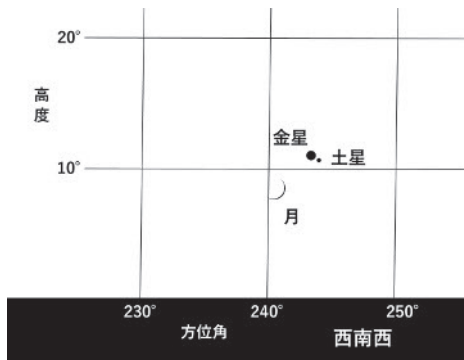


図:1月23日18:00の大阪での西空

カノープスが見ごろ

りゅうこつ座の一等星カノープスが、宵の時間帯に見やすい時期になりました。大阪付近での南中時の地平高度は約3度、地平線上に現れる時間は約3時間と、観望が難しい星の一つです。ただ、南の空が地平線近くまで見える場所と、天気の良い日を選べば、チャンスがあります。この時期の南中時刻は、1月20日が22:25頃、2月1日が21:35頃、2月10日が21:00頃です。見ごろは、それぞれ南中時刻の前後30分。ぜひチャレンジを！

[こよみと天文現象]

月	日	曜	主な天文現象など
1	17	火	土用の入り
	20	金	大寒(太陽黄経300°)
	22	日	●新月(6時)/旧正月/月が今年最近(356,569km)
	23	月	夕空に金星と土星が接近し、月もならぶ
	26	木	月と木星がならぶ
	29	日	●上弦(0時)
	30	月	水星が西方最大離角/月とすばらが接近
	31	火	月と火星がならぶ/火星食(日本では見えない)

月	日	曜	主な天文現象など
2	3	金	節分/月とポルックス、カストルがならぶ
	4	土	立春(太陽黄経315°)/月が最遠(406,476km)
	6	月	○満月(3時)
	11	土	建国記念の日
	14	火	●下弦(1時)
	15	水	金星と海王星が非常に接近(最接近時には見えない。21時に50秒角)

嘉数 次人(科学館学芸員)